



# WHITE ACADEMEY PTA 実践NEWS LETTER

2020年12月号

お子様の就職活動に役立つノウハウを、ホワイトアカデミーPTA会員限定でお届けします

---

# 目次

## 目次

12月のご挨拶	1
最新の業界動向の総括	2
自動車	3
航空産業・建設・工作機械・造船・プラントエンジニアリング	5
エレクトロニクス機器（電機・精密）	6
情報通信・インターネット	7
資源・エネルギー・素材・環境	8
金融	10
法人向けサービス	12
個人向けサービス	13
終わりに	14

---

## 12月のご挨拶

毎年、クリスマスを過ぎると「今年もあっという間の1年だったね」と方々で耳にしますが、いかがお過ごしでしょうか？

今年は誰にとってもコロナに振り回された1年でしたが、去年の今頃は「2020年はオリンピックもあって、景気が盛り上がりを見せる1年になるのかな」と誰しも思っていたのではないのでしょうか？

かく言う私も、2020年は引き続き就活生の売り手市場が続き、五輪終了後の2022年卒の就活も、それなりにやりやすいものになるのではと内心では思っていました。

ところが、2020年の年明けからコロナが騒がれ出し、あれよ、あれよという間に感染が広がり、感染を食い止めることが何よりも最優先され今に至っています。

感染防止も当然大切なことですが、一連の社会情勢によって犠牲になったことを挙げるとキリがなく、2022年卒の就活もその1つになってしまいました。

残念ながら、**コロナ対策としての経済活動自粛は、あと数年は続く**でしょうから、**景気動向が読めない以上、新卒就活の「コロナ氷河」もあと数年は溶けない**のではないかというのが私の見立てです。

そこで、今月号と来月号では、2回に渡り、**コロナショックを受け、各業界はどのような状況に置かれているのかを緊急特集**することにいたしました。

今月号のニュースレターでは、業界研究シリーズの第一弾として、長らく日本の経済を底支えしてきた**重厚長大産業**を中心に取り上げていきます。

今後の就活で役立つこと間違い無しの情報ばかりですので、ぜひ、年末年始にじっくりと読み込んで年明けの企業エントリーに生かしていただければ幸甚です。

竹内健登

## 最新の業界動向の総括

今回のコロナ禍で最も需要が蒸発して厳しい環境に置かれたのは、**航空業界・旅行・ホテル・飲食・外食**とされています。

特に、航空業界では航空機や部品の受注もストップしてしまったので、三菱重工をはじめ、各社が大きな打撃を受けています。

一方、自動車に関しては、工場やサプライチェーンが一時的に止まったり、外出自粛で販売台数が伸び悩んだりしたものの、トヨタやホンダ、スズキ、日産は過去最高の販売台数を更新しています。

これは、新興国で需要が伸びていることが原因であり、**自動車業界は急速に回復**してきていると言えます。

自動車業界が好調だと、部品に必要な**半導体メーカーや各種部品メーカーも伸びる**見込みですが、国内に関しては後退しているので、内需向けの部品の需要が落ちる分、**鉄鋼などは厳しい局面**に置かれそうです。

また、ITを使ってどんどん新しいことをやっていこうという機運が高まっているため、**デジタルトランスフォーメーションや5Gは伸びています**。

併せて、外に出ない分、**家具や家電、ゲームなどは巣ごもり需要で伸びており、テレワーク関連でもパソコンなどは大きく伸びています**。

それでは早速、各業界の情勢を詳しく見ていきましょう。

## 自動車

自動車は、国内需要が低調ですが、インドやインドネシアなどの発展途上国では販売台数を大きく伸ばしています。

自動車業界自体は採用数をそこまで減らすことはないでしょうが、国内需要は縮小しているため、国内で必要とされる人材はさほど多くはありません。

自動車業界を志望するのであれば、海外を志望した方が将来の展望が開けており、昨年も日産がTOEICの成績優秀者に対して特別インターンを実施するといった動きが見られました。

**海外でグローバルに働きたい場合は、自動車業界はオススメ**です。

なお、自動車業界では、現在、**次世代自動車と言われるエコカーや自動運転車などの開発競争が激化**しています。

先進国では、**コネクティッドカーや自動運転、シェアリング、電気自動車**などが開発テーマとなっており、国内では、トヨタが企業や行政と提携して「街を丸ごとデザインする」という壮大なプロジェクトを進めています。

これまでは、車を移動するための手段として売っていましたが、そこから領域を広げ、道路建設や都市デザインなど、より包括的な事業展開を考えるようになってきているのです。

コネクティッドカーについては、ソフトバンクをはじめとしたIT企業との連携が進んでおり、背景としては、デジタル地図などを使う際に大量のデータの処理が必要になることがあります。

自動運転では、空間の測量やナビが必要なので、これらの関連企業も伸びています。

自動運転は段階的に導入されると言われており、日本は道路が狭いのですぐに普及するとは思えませんが、今後、「走る・止まる・曲がる」の複数を自動化するというレベルには間もなく到達すると言われています。

とは言え、運転には突発的な動きがつきものなので、全ての運転操作を自動化するには道のりはまだまだ長いと言えます。

当面は、自動車専用道路やサービス車両で自動運転が普及していくものと思われます。

シェアリングに関しては、日本ではエニカ、モブ、ジャパントクシーなどのタクシー配車アプリが中心ですが、既にある車をシェアしようという発想でサービスが展開されているものの、コロナで打撃を受け業績は落ちています。

電気自動車についても段階的に普及していくと言われており、現在はマイルドハイブリッドやプラグインハイブリッドといったガソリンと電気の併用が主流ですが、将来的には100%電気で走る自動車が普及すると見られています。

このように、先進国では技術開発に力を入れており、**理系の採用が伸びる**ことが見込まれます。

## 航空産業・建設・工作機械・造船・プラントエンジニアリング

航空産業は回復の見通しが立っておらず、航空機やエンジンのメーカーはリストラに着手している  
ので、あまりオススメできません。

また、建設・工作機械などのマザーマシンを造っている企業も、米中対立やコロナの影響で低迷し  
ていますが、介護用をはじめ、**ロボットは、今後、人手不足を背景に伸びる**と言われて  
います。現在は、自動車や電機を造るロボットが主流ですが、今後は食品や物流など様々な分野への  
応用が期待されているので、**機械工学**などを専攻していれば活躍の機会が広いでしょう。  
勿論、そういった技術を活用して産業の発展に寄与したいという志望動機を引っ提げて営業職を  
志望するのもありではないかと思えます。

造船はコロナ前から下り坂でしたが、今回のコロナで商談が更に停滞しました。  
韓国と受注合戦を繰り広げていますが、海外との競争は厳しさを増す一方なので、あまりオススメ  
できない業界です。

日揮、千代田化工建設、東洋エンジニアリングが御三家と言われるプラントエンジニアリング業界  
では、発展途上国に化学プラントを造ったりしています。  
1件当たりの受注金額が大きく経営が安定しないのが特徴で、過去には三菱商事が千代田化  
工建設に資本を注入して救済したこともあります。  
原油安やコロナでの投資意欲減退を受け、中期的に見て見通しがあまり立っていない業界となっ  
ています。

## エレクトロニクス機器（電機・精密）

オーディオビデオやデジタル家電はIoTで注目されていますが、国内市場は成熟して頭打ちの様相を呈しているため、伸びるとも伸びないとも言えるという状況です。

一方で、有機ELや液晶パネルでは中国勢の存在感が高まっており、日本勢は青色吐息なので、あまりオススメできない業種になっています。

なお、ダイソンやルンバなどの高付加価値家電は売れており、これらに次ぐデザイン性の高い家電が相次いで登場しています。

AI技術を搭載した高価格帯の家電が普及し、今後も市場は盛り上がりそうなので、**ハイテクやデジタル関連の企業に身を置いた方が、将来性があります。**

スマホ市場はコロナで打撃を受けましたが、カメラ機能拡充や5Gに活路を見出しています。通信インフラがどんどん整ってきており、3Gは間もなく終了し、今後は5Gが主流になってきます。5Gに対応する機種は今後の買い替え需要で売れるので、ここに活路を見出しているというのが現状です。

以上を踏まえ、これらに搭載される**半導体や電子部品をはじめ、EMSも伸びる**と言われていますが、企業によって状況はまちまちなので、企業選びが重要になる業界と言えます。

## 情報通信・インターネット

**情報通信・インターネット業界は、DXや5G、ECが追い風となって軒並み好調です。**

ドコモやソフトバンクなどの通信キャリアについては、5Gの普及が想定より進まなかったとはいえ、今後、対応機種が売れる兆しがあります。

通信キャリアは、金融や物販などの非通信領域に多角化をしており、非通信領域で2割ほどの売り上げがありますが、顧客データを最大限駆使しようという動きが見て取れます。

なお、楽天が参入してきて通信キャリアの競争が激化すると言われていましたが、現状では、まだ楽天の存在感はありません。

今後、社運を賭けて楽天がどう攻勢してくるかについては引き続き動向を見ておいた方が良さそうです。

パソコン市場では働き方改革が追い風になっており、タブレットではEラーニングに期待がされている他、サーバーはテレワーク拡大などで需要が伸びています。

ソフトウェアは、新型コロナを機に一時的にマイナス成長に陥りましたが、中期的にはDX需要やAI・テレワーク関連のシステム構築などで拡大していくことが十分予想されるので、オススの業界です。

ドロップボックスやスラックといったクラウドサービスは米中勢が席卷していますが、コロナ禍でもテレワーク需要などで堅調に伸びています。

SaaSの活用も急速に拡大しているので、今後も伸びていく業界と言えます。

Eコマースは新型コロナによる外出自粛を受け市場拡大が加速していますが、自社のECサイトでの販売に力を入れていた百貨店やアパレルなどは、今回のコロナを機に売り上げを大きく伸ばしています。

以前からIT化を積極的に進めるべきだと言われてきましたが、**今回のコロナを機に、IT化はますます進んでいきそうです。**

## 資源・エネルギー・素材・環境

電力・ガス業界に関しては、価格が自由化されたため値下げ競争が続き、利益が圧迫されています。

特に、新電力と呼ばれる新たなジャンルの企業が登場しており、大手企業からの顧客流出が続いているため、先行きは依然不透明です。

世界的には、脱炭素化のグリーン志向が強まっており、火力発電で二酸化炭素を排出することが問題視されています。

今後、**太陽光発電や水力発電にシフト**していくと見られますが、九州・四国・北陸電力は火力発電が中心であり、今後、火力発電機材メーカーを含めて大きく影響を受ける可能性があります。

鉄鋼はコロナ禍の影響で需要がなお低迷しています。

自動車関連は多少なりとも需要が戻ると思われますが、日本製鐵やJFE、神戸製鋼などの鉄鋼大手は**高炉を相次いで閉鎖**しています。

原因としては、鉄鉱石などの原料価格が高騰しているのにコロナで製品が売れないという状況に陥ったことが挙げられます。

電炉はスクラップを電気で溶かしてリサイクルする分、原料価格高騰の煽りは受けていませんが、**鉄鋼は国内需要が既にピークを過ぎている**のが現状です。

海外であれば問題ありませんが、国内に関してはかなり先行きが不透明であると言わざるを得ません。

オイルメジャーに関しては、元々原油価格が低迷していたところに新型コロナが襲来してガソリンの需要減が発生したので、多額の評価損を計上しており、先行きは不透明です。

逆に、化学メーカーは、今期は自動車向けが低迷しましたが、来期は回復傾向にあります。

半導体向けも既に回復傾向にあり、低単価のものは発展途上国へ、ナノ素材をはじめとした高付加価値素材は国内向けにという棲み分けも進んでいます。

元来ホワイト企業が多い業界なので、今後は**化学メーカーにエントリーするのがオススメ**です。

銅・アルミは、今後の成長分野である新興国関連の自動車関連ビジネスが新型コロナで停滞しましたが、今後、回復が見込まれるので、需要が見込まれます。

また、レアメタルやレアアースは、電気自動車や電子部材に半導体として使われるので、需要が高まっており、使用済み製品からの回収技術の開発も進んでいます。

繊維は、汎用品では中国勢との競争が激しく、リチウムイオン電池も中国メーカーの成長で競争が激化しています。

宇宙エレベーターやヘリコプターなどで使われる軽くて硬い炭素系の繊維についても、航空機産業の需要蒸発で厳しさを増しています。

紙・パルプはペーパーレスの流れが続いていることもあり、大手各社が印刷用紙などの生産能力を削減しているので、長期的にはあまりオススメできない業界です。

大日本印刷や凸版印刷などの印刷会社も基本的には同じ路線ですが、半導体など、印刷技術を活用した周辺関連ビジネスが好調であり、大手2社は今後も安泰でしょう。

今後は、何かのジャンルに特化した印刷会社以外は印刷業のみで生き残るのは厳しそうです。

## 金融

日銀が金融緩和を続けており、国債の金利が付かないという構造的な問題を抱えていた金融業界ですが、今回のコロナで、**貸し先が倒産したり返済できなくなったりするリスクが高まり、引当金を積む必要に迫られています。**

メガバンクや地方銀行、信用金庫、信用組合も例外ではなく、これからは相続ビジネスとして**事業承継や相続税対策**を事業の柱にしようとしています。相続人が地方から都市に出てきた場合は、地銀に預けていた資産がメガバンクに移るので、それをいかに防ぐかが今後の課題になりそうです。

外資金融も新型コロナで貸倒引当金の計上が相次いでおり、全般的に、**M&AやIPOも低調**になっていますが、今後、経済が回復して事業投資が活発化しないと厳しい状況が続くでしょう。

一方、証券は相場が動くと儲かりますが、今回のコロナでかなり相場が動いたので、足元の収益は一時的に改善されました。

ただ、営業マンが販売する従来型の証券は手数料が高いので、**手数料依存体質から脱却**しないとネット証券に顧客が流れてしまいます。

ネット証券は投資初心者の定着や積み立て投資の拡大を図っており、ネット銀行は顧客の利便性を高めて預金残高を増やしているので、金融業界にもオンライン化の波が押し寄せています。

暗号通貨やブロックチェーンに関しては、交換所が証拠金取引の規制強化に遭い、これまでレバレッジで稼いでいた手数料収入が少なくなるため、**取引所は儲からなくなる**ことが予想されます。ビットコインを個人で保有する分には問題ありませんが、取引所に就職するのは避けた方が良いでしょう。

クレジットカード・信販会社はキャッシュレス化が追い風となり、今後も伸びることが予想されますが、今後は、**コストカットに成功し、手数料を安くできたところが他企業を買収**するのではないかとされています。

生命保険はコロナ禍で対面営業ができなくなり、業績が落ち込んでいますが、世界的に金利が下がっており、資産運用も難しくなっています。

一方、ライフネット生命などのネット生保は顧客が増えており、今後も伸び続けると予想されています。

損害保険は自動車保険が大半を占めていますが、新型コロナによる経済環境や金融市場への影響が続き、収入保険料や資産運用収益が振るわなくなっています。

また、台風が相次いだ影響で支払いが増えており、今後は従来の損保会社よりネット損保に就職した方が良いのではないかという向きもあります。

リースは給料が高い業界でしたが、コロナにより設備・事業・不動産投資が後退しており、貸倒引当金の準備も必要になっているため、今後、給料が下がる恐れがあります。

## 法人向けサービス

戦略コンサルなどのコンサルティングビジネスは、M&Aや事業承継のニーズが根強いこともあり、堅実に稼いでいる傾向にあります。

特に、M&Aキャピタルパートナーズやマッキンゼーの手掛ける大学再編などの大型案件は儲かることで有名です。

ITコンサルは、アフターコロナでリモート勤務などが定着するため、**ITを駆使したDX需要が更に伸びる分、業績が上がる**と見込まれています。

監査法人は、IT投資の負担が重く、あまり利益は出ていませんが、最近では、会計士資格を取得した学生が給与面でコンサル業界に流れており、人材不足が深刻化しています。

そのため、企業が上場する時などの監査が必要なタイミングでも、あまり利益が見込めない案件には最初から関わらない傾向がより顕著になっています。

弁護士事務所については、海外法務やベンチャーに対応可能な若手や事務所が着実に成長している一方、交通事故や離婚などの個人向け一般民事を扱っている小規模事務所はあまり儲からず、二極化が進んでいます。

裁判所のIT化が進んでおり、今後、ITリテラシーの有無が更なる所得格差拡大を生むと言われています。

人材派遣やナビサイト、人材紹介などの人材サービスは、介護や建設、ITエンジニアなどで常に人手が不足しているため、追い風になっています。

ただ、コロナで業績が悪化した企業は採用どころではなくなったため、先行きは不透明です。

特に、インバウンド需要の蒸発に伴い、その対応として進めていた**外国人採用を打ち切った企業が続出**しており、大きな痛手を被っている企業もあります。

## 個人向けサービス

教育サービス・学習塾は感染対策が課題になっており、**オンライン**の活用が増えています。

今後、少子化が進むので、薄利多売のサービスは売り上げが落ちると見込まれますが、1人当たりの教育費は増えるので、**個別指導や受験に強いと評判の塾に入塾者が集まる**傾向にあります。

就活サービスは新型コロナの影響でインターン早期化に歯止めがかかっており、学生を企業に斡旋する企業は痛手を被っています。

とは言え、採用抑制は限定的であり、介護や建設、システムエンジニアなどの一定の業種では構造的に人手不足のため、全体を見れば採用意欲はあまり衰えていません。

介護サービスは、高齢化で需要が増えていますが、コロナ禍で人手不足が更に深刻化する懸念があります。

特に、訪問介護や保険適用外のものも徐々に需要が伸びてきているので、医療費を削減するために介護に重きを置きたい国の方針と相まって、今後も伸びる業界であると言えます。

育児・保育サービス・子ども用品は新型コロナウイルスの影響で需要が伸びています。

家事代行やベビーシッターも引き続き好調なので、子ども好きな学生にはオススメです。

フィットネスクラブは新型コロナウイルスの影響で利用者が6割近く減少しており、一昔前に流行ったビリーズ・ブート・キャンプのような**家でトレーニングをするためのオンライン活用が進んでいます**。

## 終わりに

今月号では、最新の業界地図を元に、各業界が今後伸びるか落ちていくかを考察してきました。ぜひ、業界地図をお手元に用意し、今回の内容を踏まえながら**今後の需要動向を再度確認**してみてください。

お子様が今後伸びる業界を志望しているのであれば特に問題ありませんが、そうでないのであれば、今後、採用人数が減ることがほぼ確実なので、中長期的に給料が下がることを含めて進路を再考する必要があります。

それでもその業界に行きたいと言うのであれば、それを応援するのも1つの手ですが、伸びる業界に行った方が稼げることは間違い無いので、そういったアドバイスもされることをオススメします。

来月は、業界研究の後半をお伝えしていきますので、どうぞ楽しみに！

今月も、最後までお読みいただき、ありがとうございました。

竹内健登

## White Academy PTA実践ニュースレター

**発行者**：Avalon Consulting株式会社

**住所**：東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワーセンターN30階

**電話**：03-5326-3606

**HP**：<https://avalon-consulting.jp>